教授の呟き

第62回

後藤新平に学ぶ都市物流計画の役割

東京海洋大学教授　苦瀬博仁

長い歴史の中での物流の役割

塩野七生は、著書『ローマ人の物語』のなかで、「ローマ人は、インフラ整備を国家の責務として“公”の役割としていた。人と物産双方の流通が増大すれば、自給自足の生活が過去のものとなり、これはイコール生活向上を意味した」としている。(1)

このことは、ローマだけでなく時代や国を問わず世界共通であった。人々の暮らしや国家のあり方を念頭に置いて、道路や港湾など物流のためのインフラを整備することが、為政者や計画者の重要な使命なのである。

戦後の都市計画における物流

わが国では戦後からつい最近まで、物流は都市計画や交通計画の主要課題とはならなかった。なぜなら、経済成長期に人口の大都市集中現象が起き、通勤や通学などにともなう交通混雑が生じたため、人口集中に対処するための住宅計画と、混雑解消のための交通計画を、優先せざるを得なかったからと思われる。

だからといって昔も今も、都市における物流の重要性に変わりはないはずである。

このことを確かめに、昨年の夏に江戸東京博物館で開かれた「生誕150周年記念、後藤新平展－近代日本をデザインした先駆者－」を訪れた。

震災復興計画の中の物流計画

後藤新平は、国務大臣などを歴任したあと、大正９年（1920）に東京市長になる。市長になると「８億円計画、新事業及其財政計画概要」という東京改造計画をつくる。当時の国家予算15億円の半分以上であったことから「後藤の大風呂敷」と言われた。大正13年（1924）に関東大震災が起きると、「帝都復興の議」を閣議に提出し、その後、帝都復興院総裁になる。

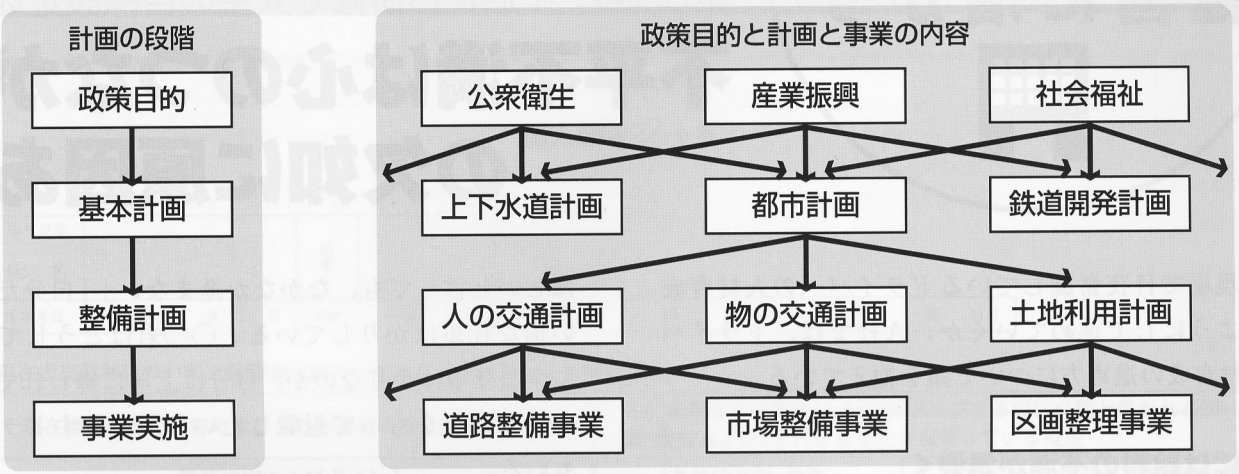
「都市計画の歴史は、街路と公園の歴史」であり、「都市計画の母は、区画整理事業」と言われている。もちろん後藤新平が立てた関東大震災後の「震災復興計画」においても、街路（道路）と公園の計画があり、これらを生み出す区画整理の計画があった。

これらの計画のなかで、物流の視点からすれば、卸売市場と河川の計画に注目したい。

明治21年（1988）の東京市区改正条例（わが国で初めての都市計画）では、日本橋の魚河岸の移転が取りざたされたものの実現していなかった。そのため震災を期に、移転先として築地卸売市場の計画も必要だったのだろう。

また、当時の輸送手段を考えれば、河川の計画には物資供給路としての役割も考えられていたことだろう。さらに、「帝都復興計画東京市案一般図」には、実現しなかったものの埠

図　計画に必要な4段階と、後藤新平の「物の交通計画」の位置づけ



頭（ふとう）の計画も盛り込まれていたことに感動した。[2]

理念を実現する物流計画

しかし、この展覧会では、都市における物流の役割の確認という当初の目的以上に、より大きなことを学ぶことができた。

後藤新平は、40歳代には欧米諸国とは異なり、衛生問題や教育を通じて台湾の発展に寄与した。50歳代には南満州鉄道の建設に尽力し、また鉄道の広軌論を唱え、60歳代に東京市長に就任する。この間に拓殖大学の第３代学長（大正８年～昭和４年）を務め、晩年にはラジオ放送の普及やボーイスカウトの設立にも関わる。

人々の暮らしや国家にとって必要不可欠のものであれば、経済論理を超えて整備しなければならないこともある。しかしそのためには、整備や計画に先立つ理念や政策目的は確固たるものであるべきだろう。

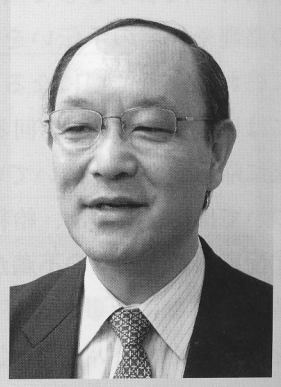
後藤新平の足跡をたどると、そこには50年後100年後を見据えながら、常に人々の暮らしや国家のあり方についての理念を持っていたように思う。その理念を実現する方法として、台湾での水道建設、満州での鉄道敷設、東京の都市計画、戦災復興計画などを位置づけていたように思うのである（図）。

それに比べて現代の我々は、都市を考えるときも物流を考えるときも、いささか小さな枠組みの中で、表層的に語りがちではないだろうか。需要供給とか、費用対効果とか、効率性などに頼るあまり、本質を見失っていることはないだろうか。理念に基づく政策目的を不確かなままにして、安直に整備計画を考えている可能性はないだろうか。[3]

「人々の暮らしや国家のあり方・行く末を深く考え、組み立てた理念のもとで都市の物流計画を考えなさい」と、諭されたような気持ちになったのである。

(1) 塩野七生：「すべての道はローマに通ず－ローマ人の物語Ｘ－」、pp24-32、新潮社、2001
(2) 東京市政調査会：「日本の近代をデザインした先駆者－生誕150周年記念後藤新平展図録－」、東京市政調査会、2007
(3) 杉山・国久・浅野・苦瀬編著：「明日の都市交通政策」、pp50-66、成文堂、2003

Profile
東京海洋大学　海洋工学部
流通情報工学科　教授
苦瀬博仁



（くせ　ひろひと）1951年東京生まれ。73年早稲田大学理工学部土木工学科卒業。81年、同大学大学院博士課程修了後、日本国土開発に入社。86年東京商船大学助教授、94年より同大学教授。2003年大学統合により、東京海洋大学教授。副学部長、評議員を経て、06年4月より流通情報工学科長。94年から95年の１年間、フィリピン大学客員教授。04年６月より東京大学大学院医学系研究科客員教授（併任）。主な著書に「付加価値創造のロジスティクス」（税務経理協会）、「都市交通－都市交通計画・都市物流計画」（丸善）、「マニラ・エンジョイ・トラブル」（論創社）、「明日の都市交通政策」（成文堂）、「都市の物流マネジメント」（勁草書房）http://www2.kaiyodai.ac.jp/~kuse/